

全国農業協同組合連合会山形県本部 園芸産地拡大実証研修農場

山形県内でいち早くASIAGAP(青果物)認証を取得し、研修生や視察の受け入れを通してGAPの普及・啓発に貢献。

代表者名：藤井 光

面積：0.3ha

所在地：山形県東田川郡三川町

構成員：6名

認証：ASIAGAP(H30年)

品目：ミニトマト、ねぎ、パプリカ

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた取組】

- 農場全体で160項目に及ぶ自己点検(リスク分析)を継続して実施。作業用具を用途別に色分けするなどにより、用具による農薬の交差汚染等を防止。
- リスク管理のため、毎朝ミーティングを実施し、過年度の作業日誌を参考にしながら各作業の留意点等を共有。

【生産効率の向上、経営の改善に向けた取組及び効果】

- 過年度の作業日誌から各作業の面積当たりの標準作業時間を解析し、所要労働時間や収量・品質等の現状把握と改善点を検討。
- GAPの取組により、整理整頓の意識が定着し、肥料や生産資材の的確な在庫管理が実現。

【地域内外への波及効果】

- 農場スタッフ5名がGAP指導員資格を取得(ASIAGAP1名、JGAP4名)し、産地内のGAPの取組の発展に貢献。
- ミニトマト等のGAP認証農場として研修生や視察者の受け入れを積極的に行い、生産工程管理の重要性や認証取得のノウハウを伝授。



用具の色分け指示書とそれに対応したタオル(左下)やバケツ(右下)



毎朝のミーティングの様子